

2014 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	全学教職課程委員会
評価基準 1	理念・目的
点検・評価項目(1)	1-1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
評価の視点	理念・目的の明確化 [文科系総合大学として相応しい広い教養と深い専門性を備えた教員養成]
	設置の主旨や歴史からみた理念・目的の適切性
点検・評価項目(2)	1-2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	構成員に対する周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(3)	1-3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

1-1	<p>本学は、戦前には漢学に秀でた教員を多く輩出し、戦後は、文科系総合大学として発展してきている。教職課程設置の理念と目的は、教職を志望する学生が専攻する学問分野において広い教養と深い学問的素養を獲得し、豊かな人間性と個性を備え、さらに協調性を兼ね具えた教師を養成すること、にある。教員は児童生徒の人間形成に深く関わる職業であり、歴史的、社会的責任が大きい仕事であることは言うまでもない。それ故、教員を目指す学生は、教職への明確な目的意識をもち、教育的情熱と重責を担う自覚を持つように指導すべきである。さらに、人間としての豊かな教養を身につけ教職および教科に関する広くて深い専門的知見を有し、実践的指導力を備えられる教員を輩出することが目的である。</p>
1-2	<p>約3000名の入学者の内、29.3%の880名が教職を志望し、その12.3%の108名が教職に就職している。入学者の約3割が教職を志望しているという事実から判断すると、本学入学者は、教職志向が高く、また一定程度社会的に認知されているといえる。</p> <p>なお、こうした情報は、クロッシングやHP上でも情報公開されている。</p>
1-3	<p>全学教職課程委員会は学部学科横断組織として、教職課程全体の理念・目的実現のための調整機関として存在してきた。しかしより強力な全学組織として「教職センター設立」を積極的に提案している。</p>

【効果が上がっている事項】

1-1	教職志願者が多く、卒業生の中で教職就職者の割合が高い。
1-2	
1-3	

【改善すべき事項】

1-1	「教職の大東」といえるように、教職希望者に対する支援を強化することである。
1-2	
1-3	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

<p>非常勤講師や過年度卒業者を若干含めた教職就職者数は、2005年度98名、2006年度102名、2007年度105名、2008年度127名で、4年間の平均は108名である。教職履修者数の12.3%が教職に就職している。つまり3000名の入学者の内、29.3%の880名が教職を志望し、その12.3%の108名が教職に就職している。本学教職課程履修者の中で、埼玉県の教員採用試験を受験する学生が多い。2013年度教員採用試験受験者数でみると、小学校・中学校・養護教諭受験者数で文教大学（548名）、埼玉大学（325名）に次いで第三位の294名である。高等学校・特別支援学校受験者数では、第二位埼玉大学（125名）、第三位文教大学（82名）を抜いて、本学は第一位147名である。</p>

《指標データ》

なし

Ⅲ【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」 「A：概ね達成」 「B：やや不十分」 「C：不十分」 で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	全学教職課程センターの設置	「教職課程センター」規程案の制定	→					
14年度 目標	全学教職課程センターの設置	「教職課程センター」規程案の制定	→					